

編集後記

今年の東部地方会は10月23日、慈恵医大にて南教授会長の下に行われた。同大学は長い歴史を持ち、講堂は古いけれどもドッシリした立派なものであり、すぐ近くに東京タワーが立っている。参加者は約300名で盛会である。座長は終始南会長がつとめられた。嘗ての京大外科教授鳥潟博士がこの方式を行われたと聞いているが、座長には御苦労であるが、意義のあるやり方である。会長演説「遊走腎症の二、三の問題」、特別講演「男子不妊症の臨床」志田圭三助教授、「血精液症に就て」百瀬剛一教授はいずれも20分間の演説であつたが、内容の充実したものであつた。一般演説は47題が行われた。その演説時間は予め演題によつて3分、5分、7分、10分等に決められていた。また予定時間が所々で決められており、これによつて進行状況が調節されていた。特に異色のあつた点は、幾つかの問題に就て予め決められた権威ある特別発言者が意見を述べられた事である。このように種々の新機軸があり、更にどの演説も内容豊富で、学会全体の調子を高めていた。次会は東北大学と決められた。



第11回中部地方会は11月3日、大阪医大にて石神教授会長の下にて行われた。その前夜に京都の鴨川畔舟慶楼にて幹事会が開かれ、次会の岐阜が再確認され、次々回は奈良と決定せられた。学会には約200名が参加した。特別講演は石神教授の「男子不妊の研究」で、多年の研究の集積である。招請講演の一つは大阪医大病理学浜本祐二教授の「ある面より見た腎炎」で、実験的腎炎を主とした研究であり、他の一つは大阪市大外科原田直彦助教授の「尿管粘膜の移植」であつた。この3つの演題は、最近の泌尿器科学が広い領域に伸びて行こうとしている姿を如実に示しているものと考えられ、また新しい研究領域はいつまでも尽きないことを現わして、甚だ興味が深い。一般演説にも実験的なもの、臨床的なものそれぞれに新知見が多くあつた。やはり学会の行われる度毎に学問の進歩を実感するのである。懇親会は大阪に出て梅田の「ミュンヘン」で盛大に行われた（昭和35年11月）

購読要項

1. 発行は毎月（年12回）とする。年間購読者を以て会員とする。
2. 会員は年間料金を1,000円を前納する。1冊料金100円、払込みは振替口座番号京都4772番泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名（フリガナ）、住所（雑誌郵送先）、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

投稿内規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他。寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。
例。中野：泌尿紀要、1：110、昭30。Lazarus, A.: J. Urol., 45：527, 1941。
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を付け、なるべくタイプライターを用いること。希望の場合は当編集部にて翻訳します。抄録用の原稿を送ること。翻訳の実費は申受く。
6. 掲載料は4頁迄毎頁500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈、それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は初校のみ著者校正とし、再校以降は編集者が行う。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部。